

街路樹

学力差への対応



観察上手になろう

「学力差」はどの学級にも必ずと言っていいほど存在する課題です。学年ごとにバランスを考えて学級編成を行うはずですから、学級内にいる児童生徒に能力差があるのは当然です。我々教師は、「差」があることを嘆くのではなく、「差」があることを当然として受け止め、子ども一人一人の実態を的確にとらえ、その子に応じた指導・支援をしていくことこそが大切です。

(1) 学習速度の速い子どもへの指導・支援

- 見直しを行わせる
問題を解くのが速くても、正答率が低い子どももいます。慎重さに欠ける子どもへは、自分自身で間違いに気付かせることで見直しの習慣化を図ります。
- 別の方法の発見や発展問題への挑戦
思考力や応用力がつくだけでなく、多面的なものの見方や考え方の育成につなげることができます。
- 教え合いの支援者
活躍の場の設定、というだけでなく、学習速度が速い子どもの理解を確実にする効果もあります。



(2) 学習速度の遅い子どもへの指導・支援

- 一人での追究
正答率が高く慎重な子どもに適しています。理解するまで時間がかかりますが、支援は必ずしも必要とはしません。教師は、問題を解くための時間確保と、進捗の確認で十分です。
- 教え合いの被支援者
(1)で記述した学習速度の速い子どもの活用です。「教える側」と「教えられる側」を固定させないための配慮が必要です。
- 個別の支援
子どもの理解に応じて、口頭によるヒントなどを与えることで個別的に支援します。
「授業をつくる16の視点(県教育センター)」より一部抜粋



子どもたちの学力差に対応することで、一人一人が大切にされていることを実感できるような授業を目指していきましょう。

12月22日に行われた支援員研修会で、福島大学子どもメンタルヘルス支援事業室 特任助教授 野村昂樹様の講義を聴くことができました。

野村先生は、「問題行動から、その子の『困り感』を推測し、支援方法を工夫することが重要であり、そのためにも、『観察上手になろう』と訴えていました。

「観察上手」になるコツは、具体的に記録することです。たとえば、

- ① 誰にでもイメージできる姿を記録する
 - × パニックになる
 - 大声で泣き叫ぶ
- ② 「～しない」だけでなく、その時の様子を記録する
 - × 学習に取り組まない
 - 学習に取り組まず、消しゴムで遊ぶ
- ③ 回数、割合、持続時間などを記録する
 - × 友達とよく喧嘩する
 - 1週間に3日ほど喧嘩する
- ④ 「5W1H」を盛り込んで記録する



このように具体的に記録することで、その子の状況が明確になり、共通認識がしやすくなります。

また、行動の前後に注目することも重要です。

その行動がどんな「きっかけ」で起こるのか。行動の「きっかけ」に注目することで、予測しやすくなり、事前に準備しやすくなります。

さらに、気になる行動の「結果」、その子にどんなことが起きているのか。行動の後の状況から、その子が望んでいることを知ることができます。

子どもの行動は、我々教師にメッセージを伝える手段となっている場合が少なくありません。支援員や周りの先生方と協力し、子どもたちのメッセージが受信しやすいアンテナづくりを工夫してみましょう。



研修講座のお知らせ & 研修感想紹介



<教育実践研究発表大会のご案内>

日時:平成27年2月7日(土)10:00~15:00

会場:いわき市総合教育センター

本大会は、市内幼稚園、小・中学校における教育実践のさらなる向上に寄与することを目的として開催しております。

本年度は、市内の先生方個人又は自主活動団体、グループの優れた実践や研究を共有し合う場を設定しました。多くの先生方に参加していただき、いわきの子どものために、教育実践の場で生かしていただきたいと思っております。先生方の参加をお待ちしております。



<ヤングアメリカンズ体験研修の感想紹介>

- ☆ 自分に誇りを持つ、相手を尊敬するなど、忘れていた心を思い出させてくれた。
- ☆ 自分の視野の狭さを実感した。
- ☆ 海外旅行に行ってきたような強烈な体験だった。
- ☆ 教える側の本気がいかに学ぶ側のやる気を引き出すか、身を持って体験できた。
- ☆ YAのようなパワフルで魅力的な教師になりたい。